

平成 26 年度

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業
(発達障害理解推進拠点事業)

成果報告書（概要版）

実施機関名（群馬県みなかみ町）

1. テーマ

専門性を，一般の職員に求められるものと，中核となる職員に求められるものを分けて取り組んだ。具体的には，校内のケースを重視し，そこへの参加や運営を通して具体的・主体的に取り組めるよう配慮した。

2. 問題意識・提案背景

町内の各校には，通級による指導の対象となっている子どもや，就学指導委員会で特別支援学級対象児と判定されているが，諸事情により通常の学級に在籍している子どもたちもいる。また，通常の学級の中で担任が特に配慮しながら支援する必要がある子どもも多い。これらの特別な支援を必要とする子どもたちは，通常の学級に在籍して学んでおり，支援の中心は通常の学級の担任である。また，特別支援学級に在籍する子どもとあわせ，これらの特別な支援を要する子どもが学校で充実した生活を送れるよう支援するためには，就学前の機関での早期発見とそれに基づいて早期から支援が行われることと，それが学校生活へと引き継がれていくことが大切である。そのため，特別支援教育の充実のためには，通常の学級の担任や幼稚園・保育所の保育士等が発達障害についての理解を深め，適切な支援・対応ができることが求められる。

3. 拠点校について

○ 拠点校一覧

| 設置者 | 学校名（ふりがなを付すこと） |
|-------|-------------------|
| みなかみ町 | 桃野小学校(もものしょうがっこう) |

○ 理解推進地域内の学校一覧

| 設置者 | 学校名（ふりがなを付すこと） |
|-----------|---------------------------|
| みなかみ町 | 古馬牧小学校(こめまきしょうがっこう) |
| みなかみ町 | 月夜野北小学校(つきよのきたしょうがっこう) |
| みなかみ町 | 水上小学校(みなかみしょうがっこう) |
| みなかみ町 | 藤原小学校(ふじわらしょうがっこう) |
| みなかみ町 | 新治小学校(にいはるしょうがっこう) |
| みなかみ町 | 月夜野中学校(つきよのちゅうがっこう) |
| みなかみ町 | 水上中学校(みなかみちゅうがっこう) |
| みなかみ町 | 藤原中学校(ふじわらちゅうがっこう) |
| みなかみ町 | 新治中学校(にいはるちゅうがっこう) |
| みなかみ町 | 月夜野幼稚園(つきよのようちえん) |
| みなかみ町 | 月夜野北幼稚園(つきよのきたようちえん) |
| みなかみ町 | にいはるこども園(にいはるこどもえん) |
| みなかみ町 | 第三保育園(だいさんほいくえん) |
| 社会福祉法人三峰会 | 月夜野保育園(つきよのほいくえん) |
| 学校法人建明寺学園 | 水上わかくりこども園(みなかみわかくりこどもえん) |

4. 拠点校における取組概要

| 実施時期 | 実施内容 | 備考 |
|--|---|--|
| 通年 | 各園校でのケース会議の実施 | |
| 平成 26 年 4 月 30 日・6 月 27 日・8 月 21 日・12 月 24 日 平成 27 年 2 月 26 日 | 事業推進委員会 | |
| 平成 26 年 5 月 2 日 平成 26 年 8 月 1 日 | 一般教職員向け講演会 ・横浜国立大学 関戸英紀先生 ・群馬医療福祉大学 北爪浩美先生 | 町教育研究会との共催拠点校 との共催 |
| 平成 26 年 5 月 30 日 平成 26 年 7 月 25 日 平成 26 年 9 月 25 日 平成 27 年 1 月 29 日 | アドバンス研修(中核となる教職員向 け) ・高崎健康福祉大学 宮内洋先生 ・東京学芸大学 藤野博先生 ・山梨大学 吉井勘人先生 ・国立のぞみの園 星野亜希子先生 | 郡市特支部会との共催 |
| 平成 26 年 6 月 4 日 | 特別支援教育連携協議会 | |
| 平成 26 年 6 月 4 日 平成 27 年 2 月 5 日 平成 27 年 3 月 5 日 | 保護者向け講演会 ・国立のぞみの園 星野亜希子先生 ・佐野短期大学 小竹仁美先生 ・高崎健康福祉大学 高梨珪子先生 | 桃野小 PTA との共催 月夜野幼稚園と共催 にいはる子ども園と共催 |
| 平成 26 年 10 月 28 日 | 先進校視察(横浜 平沼小学校) | |
| 平成 26 年 11 月 14 日 | 町教育研究会授業研究会指導助言 ・横浜国立大学 関戸英紀先生 ・筑波大学 澤江幸則先生 | 町教育研究会との共催 |
| 平成 26 年 12 月 | 教職員向け啓発リーフレット作成 | |

5. 主な成果

○研修会・講演会の成果について

平成25年度は年度途中からの計画で日程の調整が難しかったが、26年度は多くの教職員が参加できるよう配慮したため、充実した研修となった。

すべての教職員を対象とした研修会では、医療の立場・教育心理の立場からの基本的な内容に関する研修会を企画してきた。特に今年度は町の教育研究会との共催での研修会を実施し、町内小中学校全教職員(170名ほど)が同じ内容を同時に学ぶことができた。また、夏休み中にも研修会を企画し、多くの教職員の参加があった。2年間の研修で、特別支援教育を中心とした学級経営・学校経営についての最新の考え方を学ぶことができた。また、医療や体の動きという視点から子どもたちを理解するきっかけにもなった。学校としてのユニバーサルデザインの考え方を共通理解した上で、通常の学級の中で個々の子どもたち見つめる視点を得ることができた。

○ケース検討会議の成果について

ケース会議を開くことに関しては、それぞれの園校の中での位置づけは異なる(教育支援委員会として実施したり校内研修として実施したり)が、ある程度定着してきていると考えられる。実際の園や学校の現場での支援を充実させるためには、具体的なケースについて、全園校の職員で支援を考えるというケース会議が有効である、という声は多かった。そのケースの担任だけでなく、多くの職員が支援のヒントに気づくことができた。そのことで同じようなタイプの別の子どもへ支援の参考になることもあるなど、大きな効果を挙げてきている。また、全園校体制で取り組むことで、組織としての支援にもつながってきている。通級指導教室担当や専門相談員等の外部専門家の指導・助言も効果的であったと考えられる。

6. 今後の課題と対応

次年度以降、大きな講演会等を多数実施することは難しくなると考えられる。しかし、様々な機会に発達障害や特別支援教育に関する研修会が開催できるよう、町の教育研究会を始めとする機関と連携し、研修の機会を作っていくことが必要である。特に、就学前の保護者などへの啓発は重要であり、今後も就学前機関とも連携していきたい。

さらに、引き続きケース会議を質的に充実させていくことが求められる。

そのためには、教育事務所の専門相談員や特別支援学校のアドバイザー、スクールカウンセラー等の外部専門家を指導助言者として招いて専門性の高い会議とすることが必要だと考えられる。研修会と関連させて実施することができればより効果的であろう。そのような具体的なケースについて考えることを繰り返し実施していくことで、個々の教職員の専門性を高めていけると考える。特に運営に携わる中核的教員が、発達障害等の理解と支援に対する専門性を高めると同時に、ケース会議を効果的に進めていくための力量を高めることにつながるであろう。

さらに、検討した支援策を実施してみて、その効果を検証することも今後は必要になってくると考えられる。このことが個別の教育支援計画としてまとめられ、共通理解や引き継ぎの資料として活用されることで支援の継続性も図れるであろう。そのことは、ケース会議の質を高めていくことにもなる。そのような好循環を生み出すためにも継続的なケース会議に組織的に取り組むことが求められる。

7. 問い合わせ先

組織名：

- | | |
|-------------|--|
| (1) 担当部署 | みなかみ町教育委員会教育課 |
| (2) 所在地 | 群馬県利根郡みなかみ町後閑3 1 8 |
| (3) 電話番号 | 0278-62-2275 |
| (4) FAX 番号 | 0278-62-0632 |
| (5) メールアドレス | office-kyo-gaku@town.minakami.gunma.jp |